



## 今日も地域で頑張っています！！

～いつも各地の大会会場で頑張って審判している方々を紹介します～  
2019年9月15日(土)U-12サッカーリーグin千葉  
～柏市カナフィールド～



千葉県内では様々な大会が開催されていますが、そこで日頃から活躍している審判の方々にスポットを当てて取材しました。今回はU-12サッカーリーグにおいて、チームの帯同審判員として頑張っている皆さまにインタビューをしました。

- |                   |                                    |                |
|-------------------|------------------------------------|----------------|
| ①:氏名(敬称略)         | ②:審判歴                              | ③:審判になったきっかけは？ |
| ④:審判活動で印象に残っていること | ⑤:これまで頑張って審判活動を続けている理由は？または審判の魅力は？ |                |



- ①: 片桐 紀彦(かたぎり のりひろ)
- ②: 8年になります。
- ③: 息子がサッカーを始めたため。
- ④: サッカー未経験者の方や女性が3級を取得されていたりするのを見て素晴らしいなと思いました。
- ⑤: 4種でもたくさんいい試合に携われることです。



- ①: 瀧浪 健士(たきなみ たけし)
- ②: 約3年です。
- ③: 子供の少年団入団をきっかけにコーチになったことで審判資格を取得しました。
- ④: 夏の人工芝の試合で審判をやった時の靴底の熱さで、選手達がどれだけ頑張っているかを感じたことです。
- ⑤: 選手のプレーを間近で見ること動きや技術、判断のポイントを自分なりに考えることができるのが審判の魅力です。





- ①: 小林 良平(こばやし りょうへい)
- ②: 約5年です。
- ③: 息子が地元のサッカークラブに入団し、帯同審判がいないと大会に参加できない！と言われ、半ば背中を押される形で始めました(笑)。
- ④: まずはルールを覚えることに苦労しました(汗)。野球小僧だった私は息子がサッカーを始めるまではサッカーはテレビで見るものでしたから。先輩父兄の方々にはルール以外にもサッカーの魅力を教えて頂きました。
- ⑤: 子供たちの成長を目のあたりに出来ることですね。低学年から高学年になるにつれて試合に対する姿勢や喜怒哀楽の表現。明らかに変わってくる姿に成長を感じます。最近では特に高学年の緊迫した試合後の挨拶なんかはもう感動もんです。今ではサッカーとの関りを導いてくれた子供に感謝しています。



- ①: 酒井 純正(さかい よしまさ)
- ②: 約5年です。
- ③: 息子の手伝いから始めました。
- ④: 印象に残っているのは市内大会の決勝戦で主審を務めたことです。接戦でPKまで行いましたが、かなり緊迫した試合で自分自身にもプレッシャーがかなりかかり試合が荒れないか心配でしたが、しっかり最後まで行えたことで自信ができました。選手からナイスジャッジとお世辞でも言われたことも印象的です(笑)。
- ⑤: 自分の判断により試合がいいようにも悪いようにもなり、いい試合になった時に味わえる達成感がとても気持ちいい所に魅力を感じます。また悪い試合になったとしてもその反省を次に生かし改善することも1つの魅力だと感じています。



①: 水野 昌史(みずの まさし)

- ②: 約5年です。
- ③: 子供が少年団に入り、チームのサポートでコーチを始めたのがきっかけです。審判は有無を言わずとか他のコーチと皆で頑張るって上手くなりましょう！という感じで始めました。
- ④: 副審をさせて頂くことが多いのですが、一緒にやらせて頂いた主審の方で、ゲームコントロールが上手く、よくそこまで見られるなど思う所まで見ていて、凄い方はいるんだな！と感動してしまったことです。
- ⑤: 子供の試合と審判はセットですので、子供のチームの為に頑張っています。当たり前ですがどのチームも真剣に試合に臨みますので、プレーを見逃さないように集中して、子供が怪我なく安全に楽しくプレー出来ることを心掛けて取り組んでいます。いまだに大きな大会では少し緊張しますが、1試合通じて上手くジャッジ出来た時は嬉しいですね。



- ①: 廣田 豪男(ひろた たけお)
- ②: 4年くらいです。
- ③: 子供がサッカーを始めたからです。最初は審判をやる気は全然なかったんですけど、実際にやると難しく、1から審判のやり方を調べながらやっていました。
- ④: どの会場の審判もみんな堂々としていて、すごいなと思います(笑)。
- ⑤: 1番は子供がサッカーを頑張っている姿を見ているからですね! 子供達のために、いいジャッジができるように頑張っています。



- ①: 辻 慎治(つじ しんじ)
- ②: 約3年になります。
- ③: 息子所属チームのパパコーチとして、なかば義務的に資格取得したことです(笑)。サッカー経験はあったので抵抗はありませんでした。
- ④: 審判講習でトレセンの試合の副審を担当した時、試合後のレビューでサイドステップの動きを褒められたこと。ミスジャッジを責められることはあっても、褒められることは少ないので、もっと褒めてほしいです(笑)。
- ⑤: 審判をする1番の理由は、子供達にサッカーができる場を提供したいということです。そこに微力ながら携われていることが、モチベーションになっています。また、ルールさえ知っていれば誰でもできる、というわけでは無いというのも奥深い審判の魅力の1つと感じています。



- ①: 吉田 隆浩(よしだ たかひろ)
- ②: 5年になります。
- ③: 子供の所属するサッカークラブのお父さんコーチのお手伝いで審判を始めることにしました。最初は審判をやるつもりはありませんでしたが、子供達が頑張っている姿を見ているうちに審判で役に立てれば、と思い始めることにしました。
- ④: 主審をした試合で敗れたチームの子供達が涙をしている姿を見たとき、子供達は真剣に勝負をしているので、我々審判団もそれ以上に真摯に取り組まなければいけないと再確認しました。ハンドの判定を取り、PKで勝敗がついたので特に印象に残っています。
- ⑤: 自分の子供がサッカーを頑張っているからです。審判の魅力は、審判次第で試合を一段上のレベルに引き上げることが出来ることだと思います。自分の試合ではそうはいきませんが、上手な審判の方ですと、選手をコントロールし、より試合の面白さを引き出すことで、選手のプレーのレベルも上がる 것이라고感じています。

